

令和5年度

# 研究のまとめ

学校教育目標

自ら学び 豊かに関わり合い たくましく生きる児童の育成

## 研究主題

「ICT活用による児童の思考力や表現力の育成」



佐倉市立志津小学校

## 主題

## ICT活用による児童の思考力や表現力の育成を目指して

### 研究の視点 ①「見出す」場面

疑問をもったり、課題を明確にしたりするための工夫

### ②「自力解決」場面

情報を収集して調べ、自分の思いや考えを形成し、それを基に創造するための工夫

### ③「広げ深める」場面

自分の考えを伝え、他者と互いに学び合うための工夫

### ④「まとめあげる」場面

学んだことをまとめたり、新たな疑問や課題をもったりするための工夫

### 第1学年1組 算数科 「どちらがひろい」

○パワーポイントを使うことによって、学習がスムーズにできた。

○アナログとデジタルを両方使うことによって、子ども達がより量感をつかむことができた。

●「ひろさくらべ」であったので、最後の陣取りゲームでも、「〇〇さんの方が▲まいおい」までではなく、「つまり、〇〇さんの方が▲まいひろい」まで子ども達に書かせて確認するとよかった。



### 第1学年2組 国語科 「スイミー」

○PowerPoint で海の生き物の写真を提示することにより、物語の比喩表現と結び付けながら考えることができた。

○ Padlet で自分の考えを蓄積したことにより、物語の始め・中・終わりの場面における中心人物の変容を考えることができた。また、カードに色をつけたことで、どの場面で気持ちが大きく変化したのか、一目で確認することができた。

●1年生で字が整わない児童も少なからずいるため、画面上で書いた文字が読みづらいことがあった。



### 第2学年1組 国語科 「かたかなで書く言葉」

○スライドショーでフラッシュカードにしたことは、児童の意欲付けに有効であった。短時間でカタカナの読みを復習ができた。

○タブレットを使うと、意見や考えを書いてすぐに修正することができる手軽さや、画面に投影できる利便性があり、表現がしやすい。

●ヒントカードを全員で送信し、使うか否かは個人で判断するとよい。または、個人で考える場面で大型TVにヒントとなる画面を提示しておいてもよかった。



### 第2学年2組 生活科 「生きているって すごい！」

○成長記録としての写真の積み重ねがあることで、毎日の生き物の変化を比べたり、自分と友達の生き物を比べたりすることができるので、思考力の高まりにつながる。

○写真があることで、伝えることや書くことが苦手な低位の児童にとっても指差しながら伝えることができ、表現力を高めることにつながる。

●動画も活用できると生きものの動きをさらに詳しく伝えられ、さらに表現力を高めることができる。(動画の使い方については、細かい指導が必要)



### 第3学年1組 社会科 「火事からくらしを守る」

- 導入の授業で映像を見せたのが効果的だった。
- 佐倉市のグラフを提示していたことで、火事は自分たちにも関係する問題として考えられるので良かった。
- 画面が見づらい時があったので、画像を拡大して提示するのでも良かった。



### 第3学年2組 理科 「電気の通り道」

- コンピューター（オクリンク）を使い、自分のタブレットから大型モニターにデータを送る学習は初めてであった。結果を共有するのに有効であった。
- 今回は、導入段階（予想）をホワイトボードでの板書、結果の段階を大型モニターにより一覧提示、考察からまとめの段階はその両方を使い、学習に生かした。これが絶対はないと思う。今後も、それぞれ有効に活用できる場を考えていく。
- 理科実験のように、道具を広げて活動する場合、タブレットの置き場所が難しくなる。実験の場が狭くなるとともに、落下によるタブレットの破損も気になる。実験後に記録したり、小グループ実験での記録係が担当するなどの工夫が必要になる。



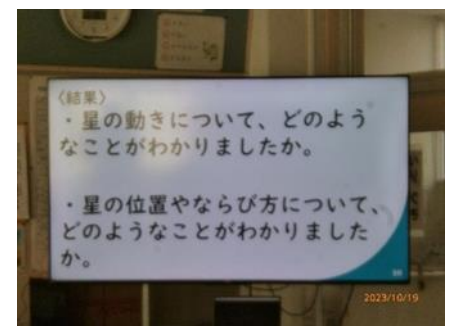
### 第4学年1組 道徳科 「絵はがきと切手」

- 意見によって色分けすることで、話し合い後の変化が視覚的に捉えやすくなった。
- 画面を二つ用意したことで、比較しやすくなった。
- 1 授業時間内に3回のタブレット活用を試みたが、児童個々のタイピング能力を超えてしまったようで、時間がかかってしまった。対策としては、タイピング能力を上げるか、活用回数を減らすかのどちらかになると考えられる。



### 第4学年2組 理科 「星や月2 月と星の位置と変化」

- アニメーションの活用により、視覚的に星の動きや並び方を予想することができた。
- スライドでもノートを取り方を見せることで、集中してノートテイクできていた。
- ICT 機器と教科書の内容を照らし合わせて、必要箇所 ICT 機器を活用する。教材研究を深く、教科書に立ち返って行く。



### 第5学年1組 算数科 「整数の性質を調べよう」

- ICT を活用したことで、自分の考えと他者の考えを比べ、どこが同じなのか確認することができた。
- 今までの学習内容を掲示したことで、前時とのつながりが確認でき、また、ヒントとして子供たちが活用できた。
- 半数の児童が ICT 機器で自分の考えをライブモニタリングに映し、半分がノートに書き表したことから、技能に個人差があった。



### 第5学年2組 算数科 「整数の性質を調べよう」

- タブレットを活用することで、数の操作が簡単にできた。また、多くの考え方が出た。
- 思考の場面では、タブレットで自分の考えを見せ合って説明することで、積極的に分かりやすく説明することができた。
- インターネットの環境設備により、スムーズにいかない場面が見られた。



### 第6学年1組 社会科 「武士の世の中へ」

- スタンプ機能を使用することで、皆がどこに注目しているのかわかりやすかった。
- 教科書とノート、タブレットをしっかりと使い分けることができた。
- スタンプの場所がばらけたので資料の写真が見えにくくなってしまった。



### 第6学年2組 道徳科 「カメラマンの選択」

- タブレットを活用することで、発言することが苦手な児童も自分の意見を述べるすることができた。また、友達同士で見合う時は匿名の表示にすることで、安心して素直な気持ちを表現することができた。
- 全体での発表だと一部の児童の考えしか聞けないが、全員のカードを見られたので様々な意見を知り考えを深めることができた。
- 児童の変容を知るために、カードを「はじめ」と「あと」で書かせてもよかった。



### 音楽専科（3年2組） 「曲の流れをとらえてきこう」

- デジタル教科書を提示して歌ったり楽器の写真を見せたりして活用した。
- 鑑賞の最後の段階の聴き味わったことを書き、それをオクリンクで集約した。友だちの意見を個々で読んだり比べたり来ることができた。
- これからは音源をタブレットに送り、個々の聴きたい部分を繰り返し聴いたりすることや、音楽づくりの活動でタブレットを活用した授業を計画したい。

